

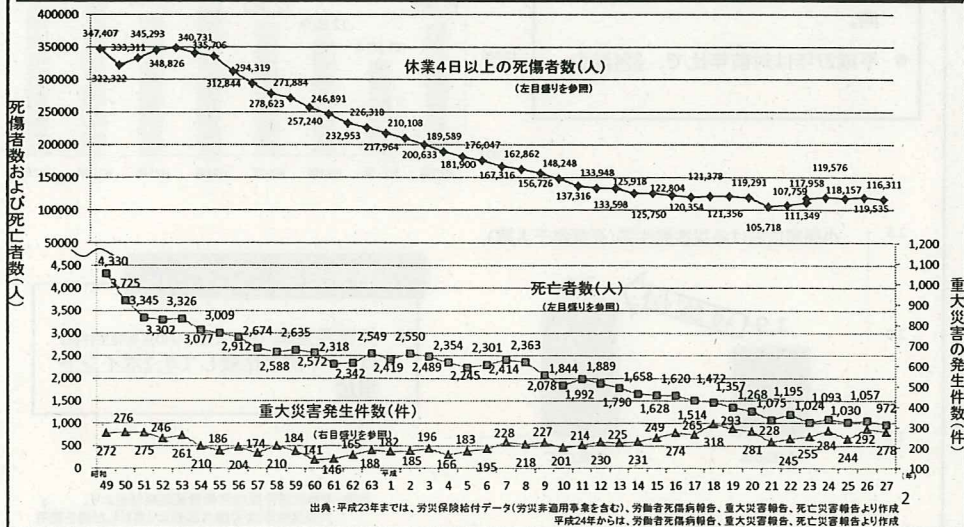
推進運動の趣旨と自主的な労働災害防止対策の重要性について



平成29年1月19日
厚生労働省労働基準局
安全衛生部安全課

労働災害発生状況の推移

- ・ 死亡者数は、長期的には減少傾向にあり、平成27年は統計を取り始めて以来、初めて1,000人を下回った。
- ・ 労働災害による休業4日以上の死傷者数は、長期的には減少傾向にあるが、第三次産業の一部の業種で増加傾向が見られるなど、十分な減少傾向にあるとは言えない。
- ・ 重大災害は、前年を下回った。

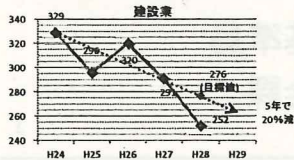
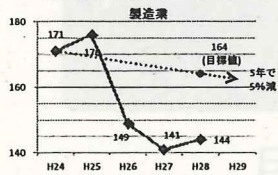
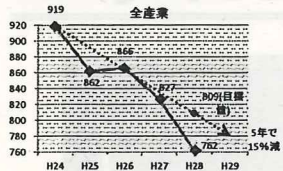


第12次労働災害防止計画に関する状況(11月末日速報値の比較)

- 【目標】○ 平成29年までに、労働災害による死亡者数を15%以上減少させる(平成24年比)
 ○ 平成29年までに、労働災害による死傷者数(休業4日以上)を15%以上減少させる(平成24年比)

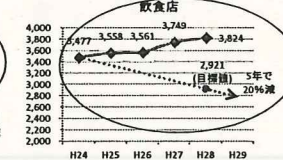
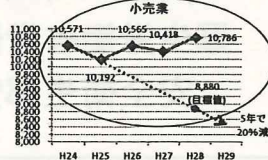
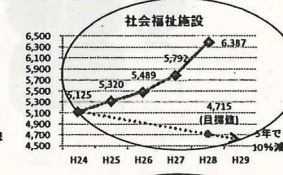
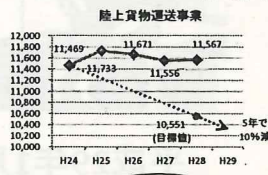
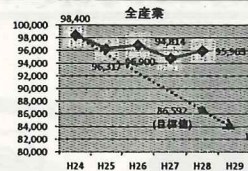
死亡災害

- 平成24年よりも17.1%減少
- 製造業は同15.8%減少
- 建設業は同23.4%減少



休業4以上の死傷災害

- 平成24年よりも2.5%減少
- 陸上貨物運送事業は同0.9%増加、小売業は同2.0%増加
- 社会福祉施設は同24.6%増加、飲食店は同10.0%増加

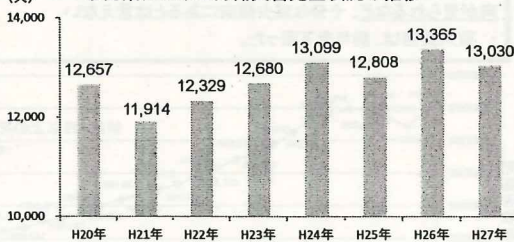


小売業における労働災害の発生状況

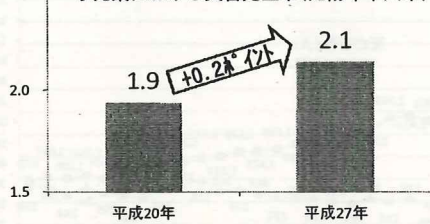
休業4以上の死傷災害

- 労働災害は平成21年より増加傾向。
- 平成27年は対前年比で、3%減少。

小売業における労働災害発生状況の推移



小売業における災害発生率(死傷年千人率)



災害発生率

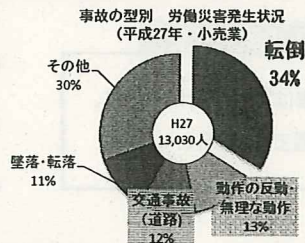
- 災害発生率(1000人当たりの災害発生件数)は、7年前と比較して0.2ポイント増加

出典:労働災害件数は労働者死傷病報告より、
 災害発生率は労働力調査より集計した値を使用

小売業における労働災害の発生状況

事故の型別死傷者数内訳

- 「転倒」が34%を占め、次いで「動作の反動・無理な動作」(13%)が多く、この二つで約半数を占める。

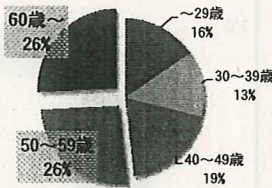
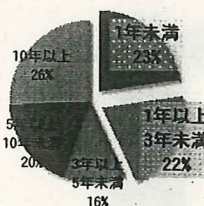


経験年数別 労働災害発生状況
(平成27年・小売業)

年齢別 労働災害発生状況
(平成27年・小売業)

経験年数/年齢別死傷者数内訳

- 経験年数3年未満の死傷者が全体の45%を占める
- 死傷者数に占める50歳以上の割合が約半数



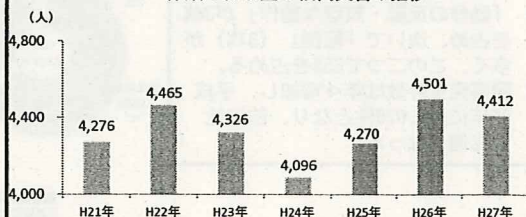
出典:労働災害件数は労働者死傷病報告より、5
災害発生率は労働力調査より集計した値を使用

小売業における転倒災害の発生状況

ポイント

- 小売業の労働災害は増加傾向。平成27年は13,030件で前年に比べ3%減少。
- このうち、転倒災害は平成27年では4,412件で全体の34%を占め、前年同期に比べ2%減少。
- 小売業における転倒災害の特徴は
 - ・ 9~11時台に多く発生。
 - ・ 50歳以上の災害が約7割を占め、かつ年々増加傾向。
 - ・ 休業見込が1月以上の災害が約6割。

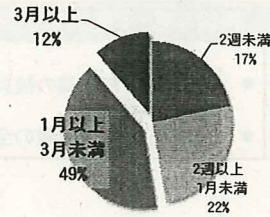
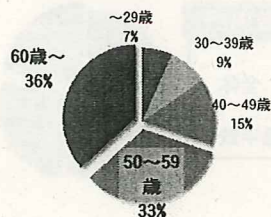
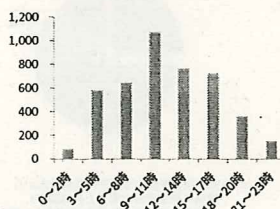
休業4日以上の転倒災害の推移



時間帯別 転倒災害発生状況
(平成27年・小売業)

年齢別 転倒災害発生状況
(平成27年・小売業)

休業見込期間別 転倒災害発生状況
(平成27年・小売業)

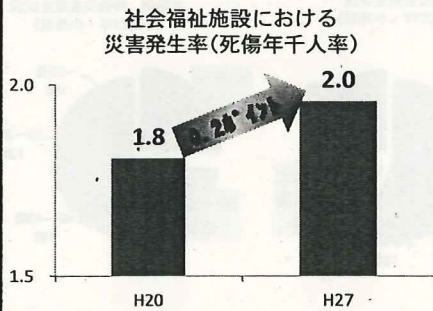


出典:労働者死傷病報告より集計した値を使用

社会福祉施設における労働災害の発生状況

休業4日以上死傷災害

- 労働災害は年々急増しており、7年間で1.6倍となった。



災害発生率

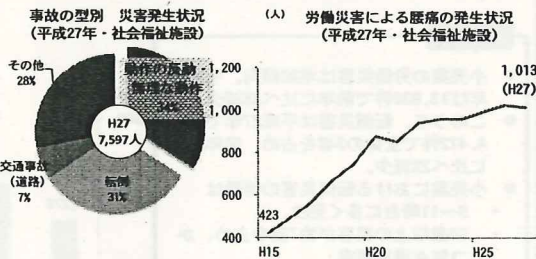
- 災害発件数が増加しただけでなく、災害発生率(1,000人当たりの発件数)も7年前と比べ、0.2ポイント増となった。

出典:労働災害件数は労働者死傷病報告より、7
災害発生率は労働力調査より集計した値を使用

社会福祉施設における労働災害の発生状況

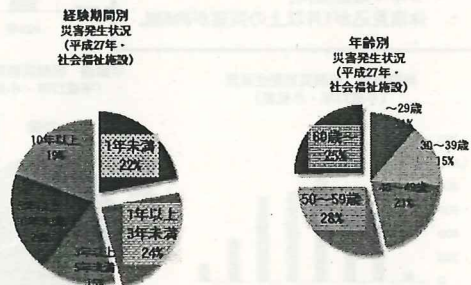
事故の型別死傷者数内訳

- 「動作の反動・無理な動作」が34%を占め、次いで「転倒」(31%)が多く、この二つで65%を占める。
- 腰痛発件数は年々増加し、平成26年には1,023件となり、前年比3%増となった。



経験年数/年齢別死傷者数内訳

- 経験年数3年未満の被災者が、全体の46%を占める。
- 50歳以上の死傷者数の全体の過半数



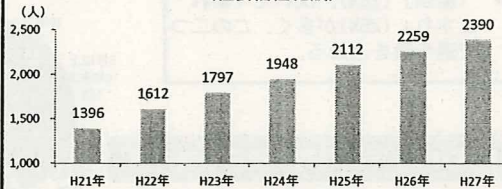
出典:労働災害件数は労働者死傷病報告より、腰痛の発生状況は業務上疾病調査より、災害発生率は労働力調査より集計した値を使用
8

社会福祉施設における転倒災害の発生状況

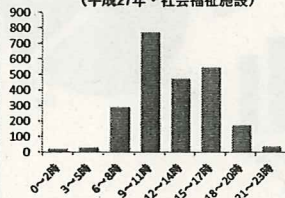
ポイント

- 社会福祉施設の労働災害は増加傾向。平成27年は7,597件発生し、前年に比べ5%増加した。
- このうち、転倒災害は平成27年は2,390件で全体の31%を占め、前年同期に比べ6%増加。
- 社会福祉施設における転倒災害の特徴は
 - ・ 9～11時台に多く発生。
 - ・ 50歳以上の災害が約7割を占め、かつ年々増加傾向。
 - ・ 休業見込期間が1月以上が約6割。

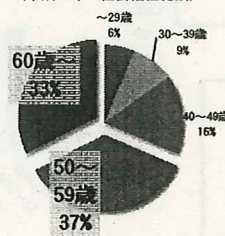
転倒災害発生状況の推移
(社会福祉施設)



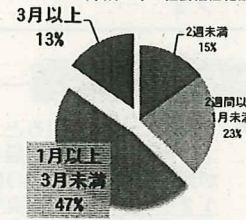
時間帯別 転倒災害発生状況
(平成27年・社会福祉施設)



年齢別 転倒災害発生状況
(平成27年・社会福祉施設)



休業見込期間別 転倒災害発生状況
(平成27年・社会福祉施設)



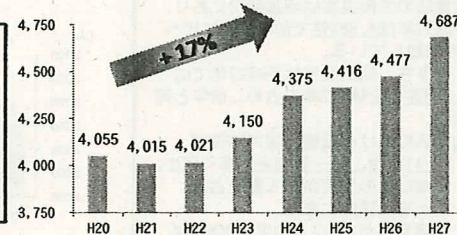
出典：労働者死傷病報告より集計した値を使用

飲食店における労働災害発生状況

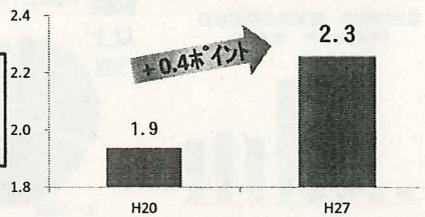
休業4日以上の死傷災害

- 飲食店における労働災害は、平成21年より年々増加。
- 平成27年までの7年間で17%増加しており、前年比でも5%増加。

(人) 飲食店における死傷災害発生状況



飲食店における災害発生率(死傷年千人率)



災害発生率

- 災害発生率(1000人当たりの災害発生件数)は、7年前と比較して0.4ポイント増加。

出典：労働災害件数は労働者死傷病報告より、災害発生率は労働力調査より集計した値を使用

飲食店における労働災害発生状況

事故の型別死傷者数内訳

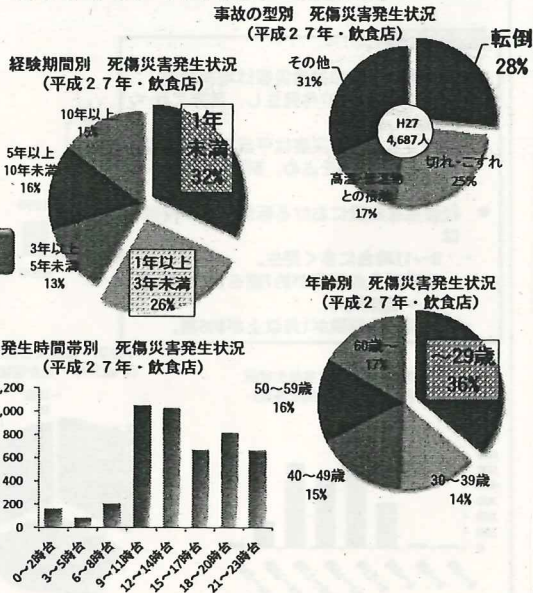
- 「転倒」(28%)、次いで「切れ・こすれ」(25%)が多く、この二つで過半数を占める。

経験年数/年齢別数別死傷者数内訳

- 経験年数3年未満の死傷者が、全体の58%を占める。
- 30歳未満の死傷者数が全体の1/3

災害発生時間帯

- 3時間ごとに区切ると、9～11時台の時間帯に最も災害が発生している(22%)ほか、12～14時台に被災する例も多い(22%)。



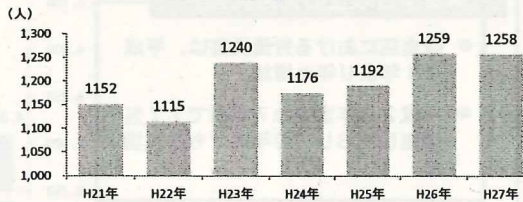
11
出典:労働者死傷病報告より集計した値を使用

飲食店における転倒災害の発生状況

ポイント

- 飲食店の労働災害は増加傾向にあり、平成27年は4,687件で前年同期に比べ5%増加している。
- このうち、転倒災害は平成27年では1,258件で全体の28%を占め、前年と同水準。
- 飲食店における転倒災害の特徴は
 - ・ 9～11時台、12～14時台に多く発生。
 - ・ 50歳以上の災害が約6割を占め、年々増加傾向にある。
 - ・ 休業見込が1月以上の災害が約6割。

転倒災害発生状況の推移 (飲食店)



12
出典:労働者死傷病報告より集計した値を使用

小売業労働災害の事故の型別構成①

平成25年の小売業における休業4日以上死傷者数9,684人を分析

総合スーパー	
1. 転倒	36.6%
2. 動作の反動、無理な動作	18.3%
3. 切れ、こすれ	12.5%
4. 墜落・転落	7.5%
5. 挟まれ、巻き込まれ	6.7%

食品スーパー	
1. 転倒	40.4%
2. 切れ、こすれ	14.4%
3. 動作の反動、無理な動作	14.0%
4. 墜落、転落	7.4%
5. はさまれ、巻き込まれ	5.9%

衣料品スーパー	
1. 墜落、転落	25.0%
2. 転倒	23.3%
2. 動作の反動、無理な動作	23.3%
4. 飛来、落下	6.8%
5. 挟まれ、巻き込まれ	5.1%
5. 激突	5.1%

住生活スーパー	
1. 転倒	27.9%
1. 動作の反動、無理な動作	27.9%
3. 墜落、転落	16.3%
4. 飛来、落下	8.5%
5. 挟まれ、巻き込まれ	6.2%

「多店舗展開を行っている小売業、飲食店における安全衛生活動の実態把握及び現状分析」(労働安全衛生総合研究所)

小売業労働災害の事故の型別構成②

平成25年の小売業における休業4日以上死傷者数9,684人を分析

ディスカウントストア	
1. 転倒	28.1%
2. 動作の反動、無理な動作	17.4%
3. 切れ、こすれ	16.9%
4. 墜落、転落	10.0%
5. 飛来、落下	7.4%
6. 挟まれ、巻き込まれ	6.2%
7. 激突され	5.2%

家電・家具量販店	
1. 転倒	28.8%
2. 動作の反動、無理な動作	20.9%
3. 墜落、転落	18.7%
4. 激突	7.9%
5. 崩壊、倒壊	7.2%
6. 飛来、落下	5.8%

百貨店	
1. 転倒	44.8%
2. 墜落・転落	15.6%
3. 動作の反動、無理な動作	9.4%
4. 飛来、落下	8.3%
5. 激突され	5.2%

ホームセンター	
1. 転倒	27.7%
2. 動作の反動、無理な動作	19.7%
3. 墜落、転落	17.1%
4. 飛来、落下	11.6%
5. 挟まれ、巻き込まれ	6.0%
6. 激突	5.0%

「多店舗展開を行っている小売業、飲食店における安全衛生活動の実態把握及び現状分析」(労働安全衛生総合研究所)

小売業労働災害の事故の型別構成③

平成25年の小売業における休業4日以上死傷者数9,684人を分析

ドラッグストア	
1. 転倒	25.0%
2. 動作の反動、無理な動作	23.3%
3. 墜落、転落	23.3%
4. 挟まれ、巻き込まれ	6.8%
5. 崩壊、倒壊	5.1%

コンビニエンスストア	
1. 転倒	43.7%
2. 高温・低温物との接触	13.1%
3. 墜落、転落	12.7%
4. 動作の反動、無理な動作	9.4%

無店舗販売	
1. 転倒	34.1%
2. 動作の反動、無理な動作	17.5%
3. 交通事故(道路)	13.0%
4. 墜落、転落	12.2%
5. 激突	7.1%

「多店舗展開を行っている小売業、飲食店における安全衛生活動の実態把握及び現状分析」(労働安全衛生総合研究所)

15

飲食店労働災害の事故の型別構成①

平成24・25年の飲食店における休業4日以上死傷者数8,941人を分析

ファストフード(全体)	
1. 高温・低温物との接触	26.8%
2. 転倒	21.3%
3. 切れ・こすれ	20.5%
4. 動作の反動・無理な動作	6.4%
5. はさまれ・巻き込まれ	6.0%
6. 墜落・転落	5.4%

ファストフード(ハンバーガー)	
1. 高温・低温物との接触	32.0%
2. 転倒	21.5%
3. 切れ・こすれ	11.5%
4. 墜落・転落	7.6%
5. 動作の反動・無理な動作	6.6%
6. はさまれ・巻き込まれ	6.3%
7. 飛来・落下	5.6%

ファストフード(丼物)	
1. 切れ・こすれ	26.8%
2. 高温・低温物との接触	21.3%
3. 転倒	20.5%
4. 動作の反動・無理な動作	6.4%

「多店舗展開を行っている小売業、飲食店における安全衛生活動の実態把握及び現状分析」(労働安全衛生総合研究所)

飲食店労働災害の事故の型別構成②

平成24・25年の飲食店における休業4日以上死傷者数8,941人を分析

チェーン系専門飲食店(全体)	
1. 切れ・こすれ	31.1%
2. 転倒	26.9%
3. 高温・低温物との接触	15.3%
4. 動作の反動・無理な動作	6.5%

チェーン系専門飲食店(ラーメン)	
1. 切れ・こすれ	28.6%
2. 高温・低温物との接触	23.0%
3. 転倒	17.7%
4. 動作の反動・無理な動作	7.4%
5. 墜落・転落	5.9%

チェーン系専門飲食店(回転寿司)	
1. 切れ・こすれ	43.6%
2. 転倒	27.0%
3. 高温・低温物との接触	8.0%
4. 動作の反動・無理な動作	5.7%

ファミリーレストラン	
1. 切れ・こすれ	29.9%
2. 転倒	27.2%
3. 高温・低温物との接触	15.9%
4. 交通事故(道路)	6.6%
5. 動作の反動・無理な動作	5.9%

「多店舗展開を行っている小売業、飲食店における安全衛生活動の実態把握及び現状分析」(労働安全衛生総合研究所)

飲食店労働災害の事故の型別構成③

平成24・25年の飲食店における休業4日以上死傷者数8,941人を分析

チェーン系カフェ	
1. 切れ・こすれ	30.2%
2. 高温・低温物との接触	20.1%
3. 転倒	12.9%
4. 動作の反動・無理な動作	10.1%
5. はさまれ・巻き込まれ	7.2%
6. 墜落・転落	5.0%

持ち帰り飲食サービス	
1. 転倒	30.6%
2. 切れ・こすれ	26.4%
3. 高温・低温物との接触	11.6%
4. 動作の反動・無理な動作	8.8%
5. 墜落・転落	7.0%
6. 交通事故(道路)	5.8%

チェーン系居酒屋	
1. 切れ・こすれ	38.2%
2. 転倒	16.5%
3. 高温・低温物との接触	16.1%
4. 動作の反動・無理な動作	6.7%
5. 飛来・落下	6.0%

配達飲食サービス	
1. 交通事故(道路)	43.9%
2. 転倒	27.8%
3. 墜落・転落	7.4%

「多店舗展開を行っている小売業、飲食店における安全衛生活動の実態把握及び現状分析」(労働安全衛生総合研究所)

施設の種類、事故の型別労働災害発生状況

1施設当たりの休業1日以上の労働災害発生数

	高齢者（施設）		障害者（児）施設		保育所		高齢者（訪問）		全体	
	25年度	26年度	25年度	26年度	25年度	26年度	25年度	26年度	25年度	26年度
災害全体	0.32人	0.40人	0.32人	0.42人	0.16人	0.21人	0.13人	0.19人	0.26人	0.34人
腰痛	0.08人	0.10人	0.04人	0.05人	0.02人	0.02人	0.03人	0.03人	0.05人	0.05人
転倒	0.06人	0.08人	0.06人	0.08人	0.04人	0.06人	0.04人	0.03人	0.05人	0.07人
墜落・転落	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人	0.00人	0.01人	0.00人	0.01人	0.01人	0.01人
激突	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人	0.00人	0.01人	0.01人	0.01人
激突され	0.01人	0.01人	0.03人	0.03人	0.01人	0.01人	0.01人	0.00人	0.02人	0.02人
交通事故	0.03人	0.03人	0.02人	0.02人	0.01人	0.01人	0.04人	0.05人	0.02人	0.02人
切れ・火傷	0.02人	0.02人	0.02人	0.03人	0.01人	0.03人	0.00人	0.01人	0.02人	0.03人
精神障害等	0.00人	0.01人	0.00人	0.01人	0.01人	0.01人	0.00人	0.01人	0.00人	0.01人
感染症	0.03人	0.04人	0.01人	0.05人	0.02人	0.03人	0.00人	0.01人	0.01人	0.04人
暴力によるケガ	0.00人	0.01人	0.06人	0.07人	—	—	0.00人	0.00人	0.03人	0.04人

出典：中災防「社会福祉施設における安全衛生対策に関する実態調査」（平成28年3月）

19

労働災害発生要因

発生要因として、
不安全な状態と不安全な行動が存在する。



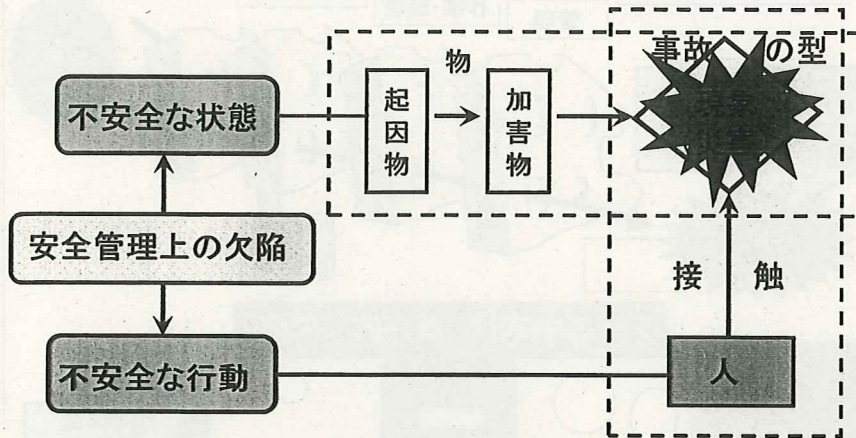
←このあと、何が
起こるでしょう？

どうして、→
こうなった
のでしょうか？



20

災害はなぜ起こる？



災害発生の基本モデル

21

4つのM

Man (人間特に人間関係)

- ①やる気
- ②職場の人間関係
- ③リーダーシップ
- ④チームワーク
- など

Machine

(機械設備その他の物的条件)

- ①安全防護
- ②本質安全化
- ③標準化
- ④表示装置
- ⑤操作機器 など

Media

(人間と機械設備の媒体)

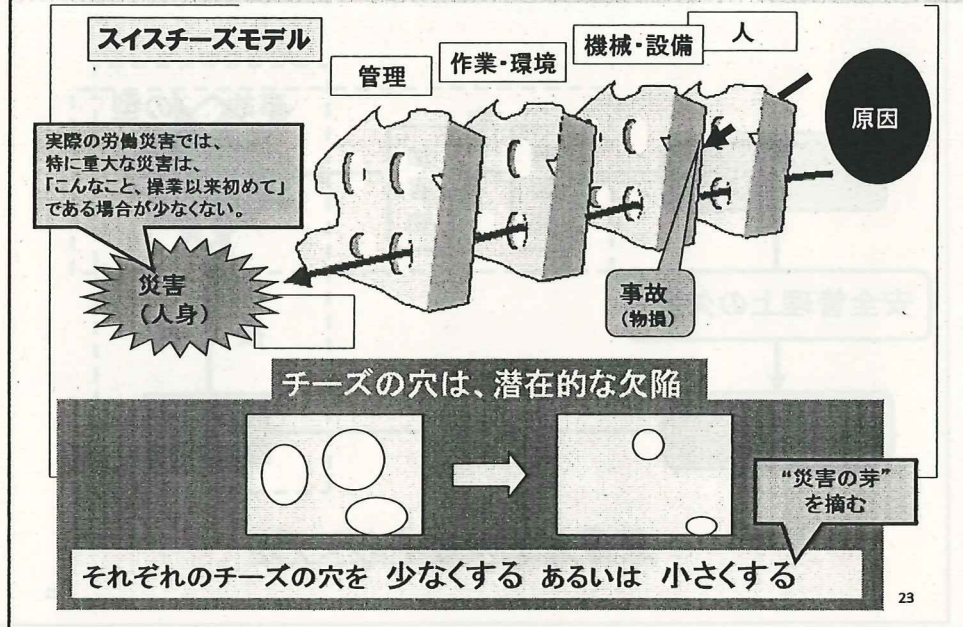
- ①作業姿勢
- ②作業方法
- ③作業環境
- ④作業手順 など

Management (管理)

- ①管理組織
- ②規則・基準
- ③計画
- ④教育訓練
- ⑤監督・指導 など

22

災害発生モデル



働く人に安全で安心な 店舗・施設づくり推進運動

～ 小売業・社会福祉施設・飲食店の労働災害の減少に向けて～

厚生労働省と中央労働災害防止協会では、小売業、社会福祉施設、飲食店において増加している労働災害の減少を図るため、「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動」を展開しています。

これらの業種で効果的な労働災害防止対策を進めるためには、推進運動リーフレット2・3ページに掲載の「チェックリストI・II」を活用し、多くの店舗を展開する企業本社、複数の社会福祉施設を展開する法人本部が主導して、店舗、施設の労働安全衛生活動について全社的に取り組むことが重要です。

推進運動リーフレット3・4ページには、次図のような取組事項の具体例のうち、主なものをまとめていますので、ご参照ください。